さいたま市　御中

分析レポート

誰と、どんなときに食べましたか？
さいたまスイーツにまつわる思い出を教えてください



PoliPoli Gov

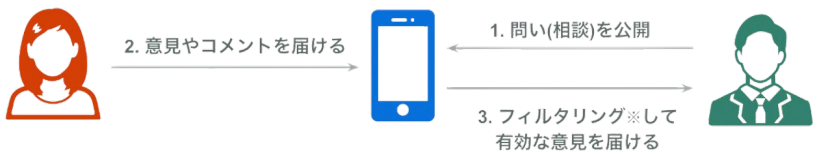
2026年10月14日

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

意見募集の概要・実施結果

- **調査方法**：デジタルツール「PoliPoli Gov」を用いたインターネットリサーチ
- **意見募集のテーマ**
  - 誰と、どんなときに食べましたか？ さいたまスイーツにまつわる思い出を教えてください
- **調査期間**：2026/7/8～2026/8/7（31日間）
- **調査地域**：全国オンライン
- **ページ閲覧数**：2774PV
- **総コメントユーザー数**：120人 (*ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出)
- **総コメント投稿数**：127件 (*コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出)

意見募集の仕組み



※プラットフォーム内のコミュニティを健全に保つため、投稿されたコメントが
攻撃的な内容や広告目的と判断された場合に、運営側でコメントを非公開としています。



URL：https://polipoli-gov.com/issues/oQON1JrrHOl8GNXDwfnI

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

意見募集の概要・実施結果

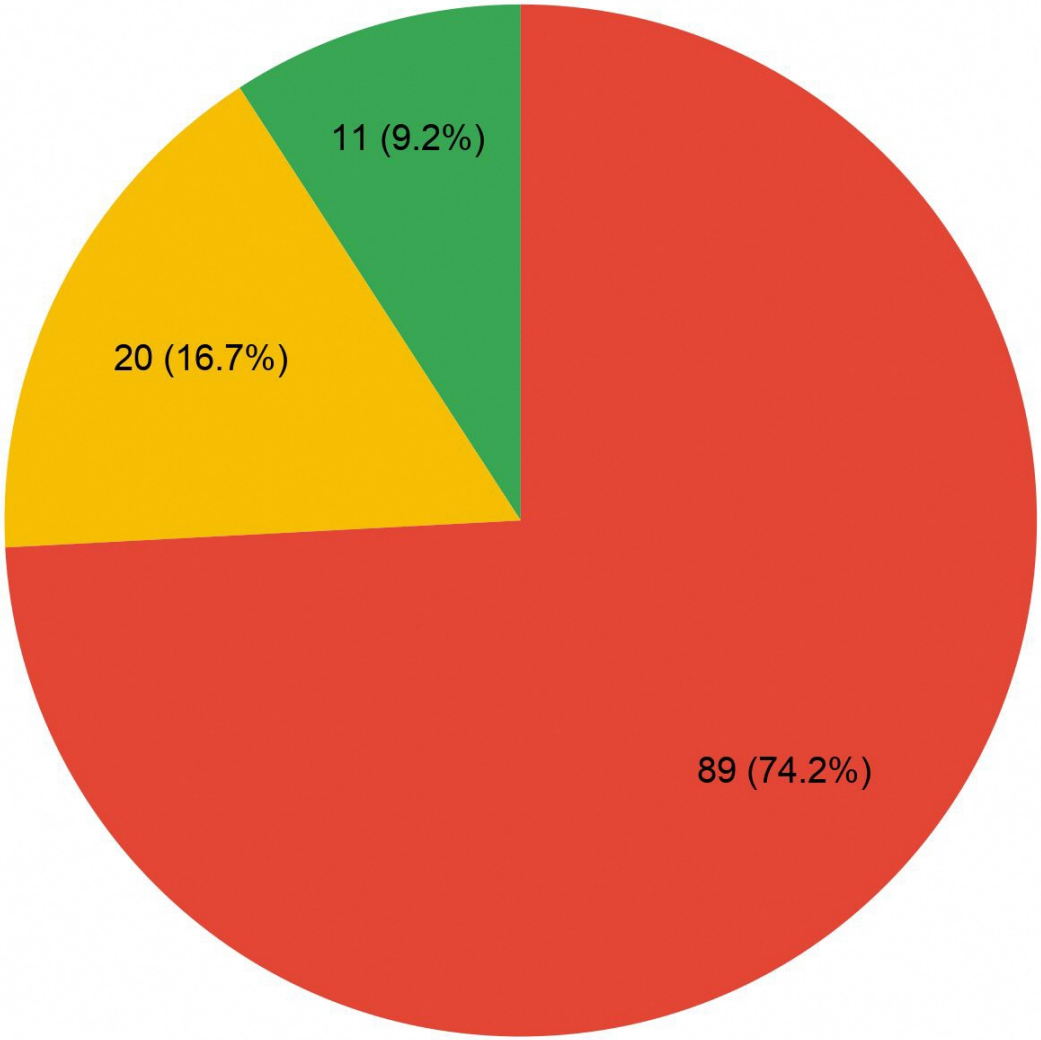
- **回答者の属性（必須回答）：**
  - ①あなたとさいたま市との関わり
    - さいたま市に居住している
    - （市外在住）さいたま市に通勤・通学している
    - （市外在住）遊びや観光などでさいたま市を訪れたことがある
    - さいたま市に行ったことはない
  - ②あなたの年代
    - 10代以下
    - 20代
    - 30代
    - 40代
    - 50代
    - 60代
    - 70代以上
- **選択的設問**
  - さいたま市がケーキ・菓子類の消費額全国第1位であることを知っていましたか？
    - 知っていた
    - 聞いたことはある
    - 知らなかった
  - 今後、さいたま市のスイーツをより多くの人に知ってもらうために有効だと思う取り組みを教えてください
    - 市内のスイーツ店を探せるマップ・特設ページ
    - 駅・商店街・イベント会場でのスイーツフェア
    - SNSで参加できる写真投稿・思い出投稿キャンペーン
    - 店舗を巡るスタンプラリーやモデルコース
    - 手土産・観光土産としての紹介強化
    - 学校・地域イベントなど、暮らしに近い場での発信
    - 市内事業者・店舗とのコラボ商品や限定企画
    - 推しスイーツに投票する選挙企画

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全コメントにおけるユーザー属性

①あなたとさいたま市との関わり（n=120）

（件）

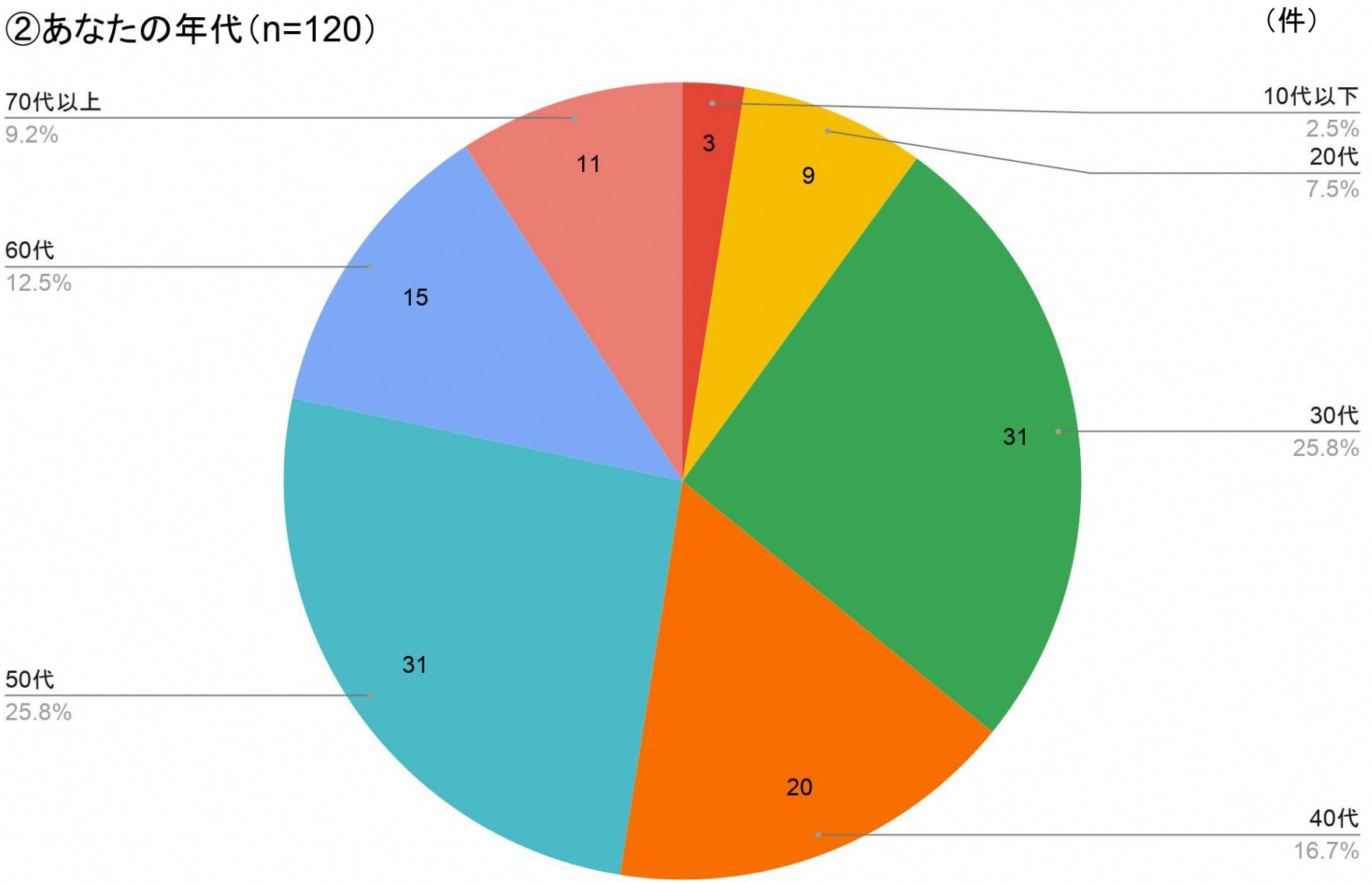


- さいたま市に居住している
- さいたま市に通勤・通学している
- 遊びや観光などでさいたま市を訪れたことがある

※構成比は小数第1位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります

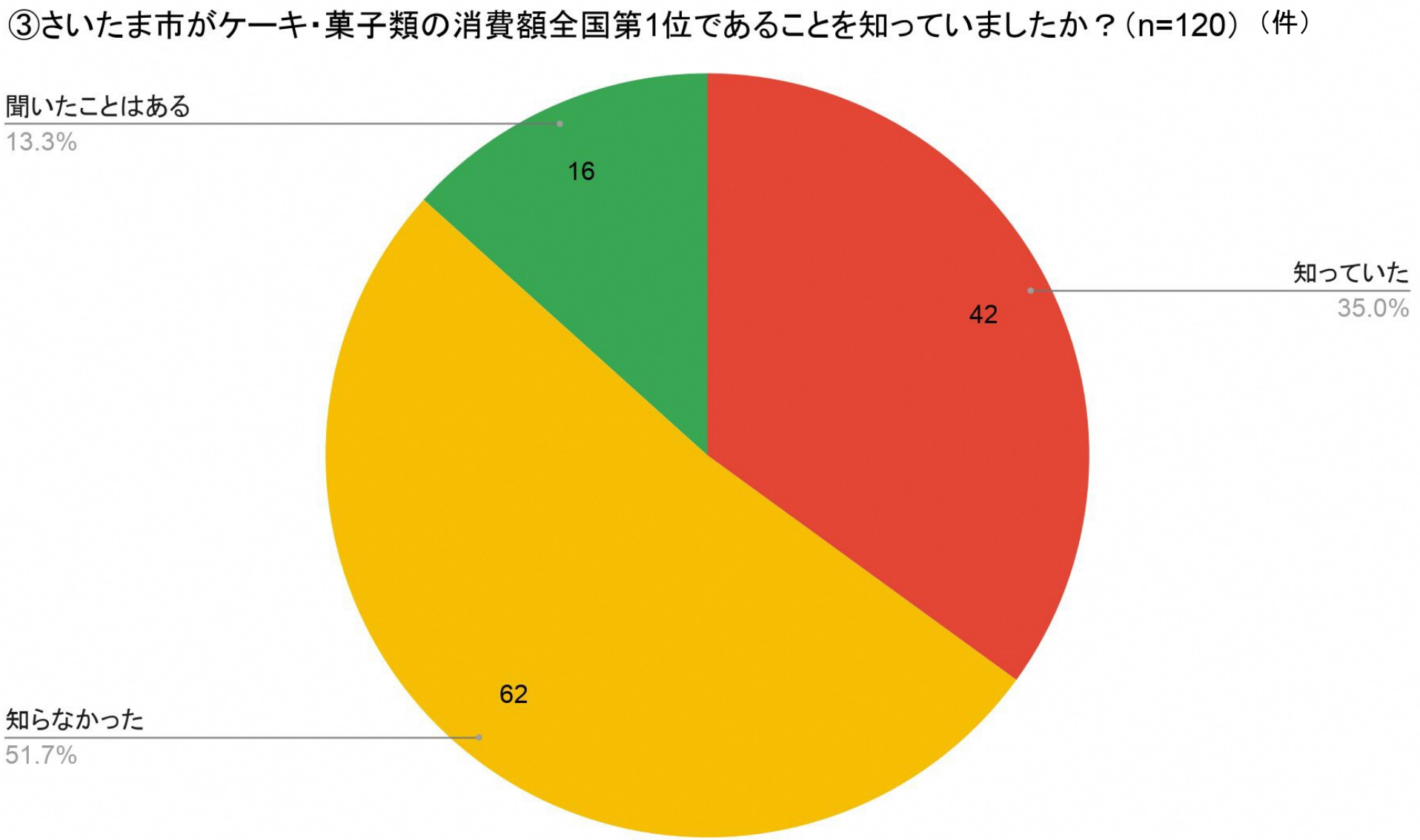
© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全コメントにおけるユーザー属性



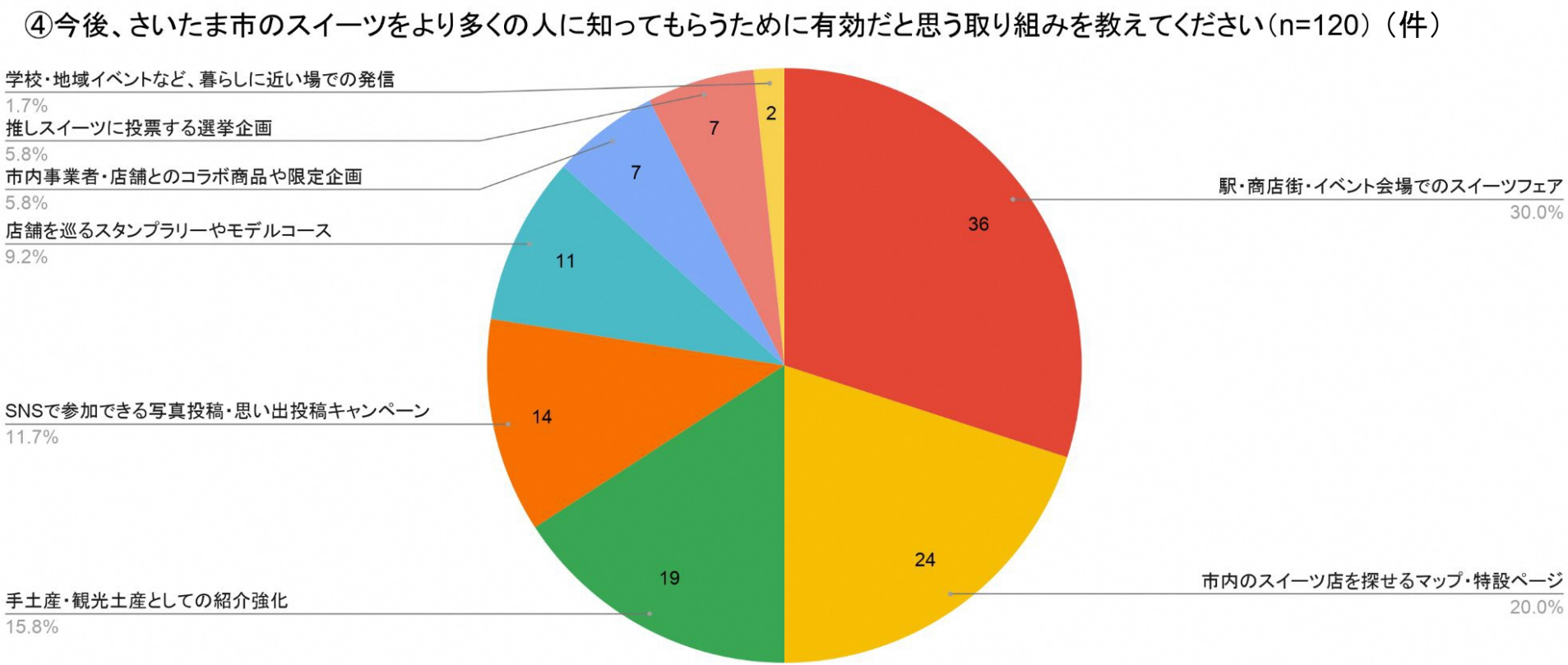
© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全コメントにおけるユーザー属性



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全コメントにおけるユーザー属性



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

属性情報・選択肢の回答からみた考察

回答者の74.2%がさいたま市に居住しているユーザーとなった。また、市外在住でさいたま市に通勤・通学している回答者が16.7%、遊びや観光などで訪れたことがある回答者が9.2%であった。

年代別では、30代と50代がそれぞれ25.8%で最も多く、次いで40代が16.7%となった。30～50代で全体の68.3%を占めており、就労世代・子育て世代を中心に意見が寄せられたと言える。一方、20代以下は合わせて10.0%にとどまっていることから、若年層の参加割合は相対的に低く、その理由の一つとして「思い出募集」という内容が若年層の関心や参加意欲を十分に喚起しにくかった可能性が考えられる。

さいたま市がケーキ・菓子類の消費額で全国第1位であることについては、「知っていた」が35.0%、「聞いたことはある」が13.3%となり、合わせて48.3%が一定の認知を有していた。一方、「知らなかった」は51.7%を占めている。さいたまスイーツに思い出を持つ回答者の間でもケーキ・菓子類への消費額が全国でも上位水準にあることは十分に認知されておらず、市の魅力としてさらに情報発信を行う余地があると考えられる。

今後、より多くの人にさいたま市のスイーツを知ってもらうための取組では、「駅・商店街・イベント会場でのスイーツフェア」が30.0%で最も多く、次いで「市内のスイーツ店を探せるマップ・特設ページ」が20.0%、「手土産・観光土産としての紹介強化」が15.8%となった。実際にスイーツと出会える機会の創出に加え、店舗情報の発信や、市の魅力としてさいたまスイーツを紹介する取組の充実が求められていることがうかがえる。
以上より、さいたまスイーツの認知拡大にあたっては、イベント等による体験機会の創出、店舗情報へのアクセス向上、手土産・観光資源としての魅力発信を組み合わせることが有効と考えられる。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

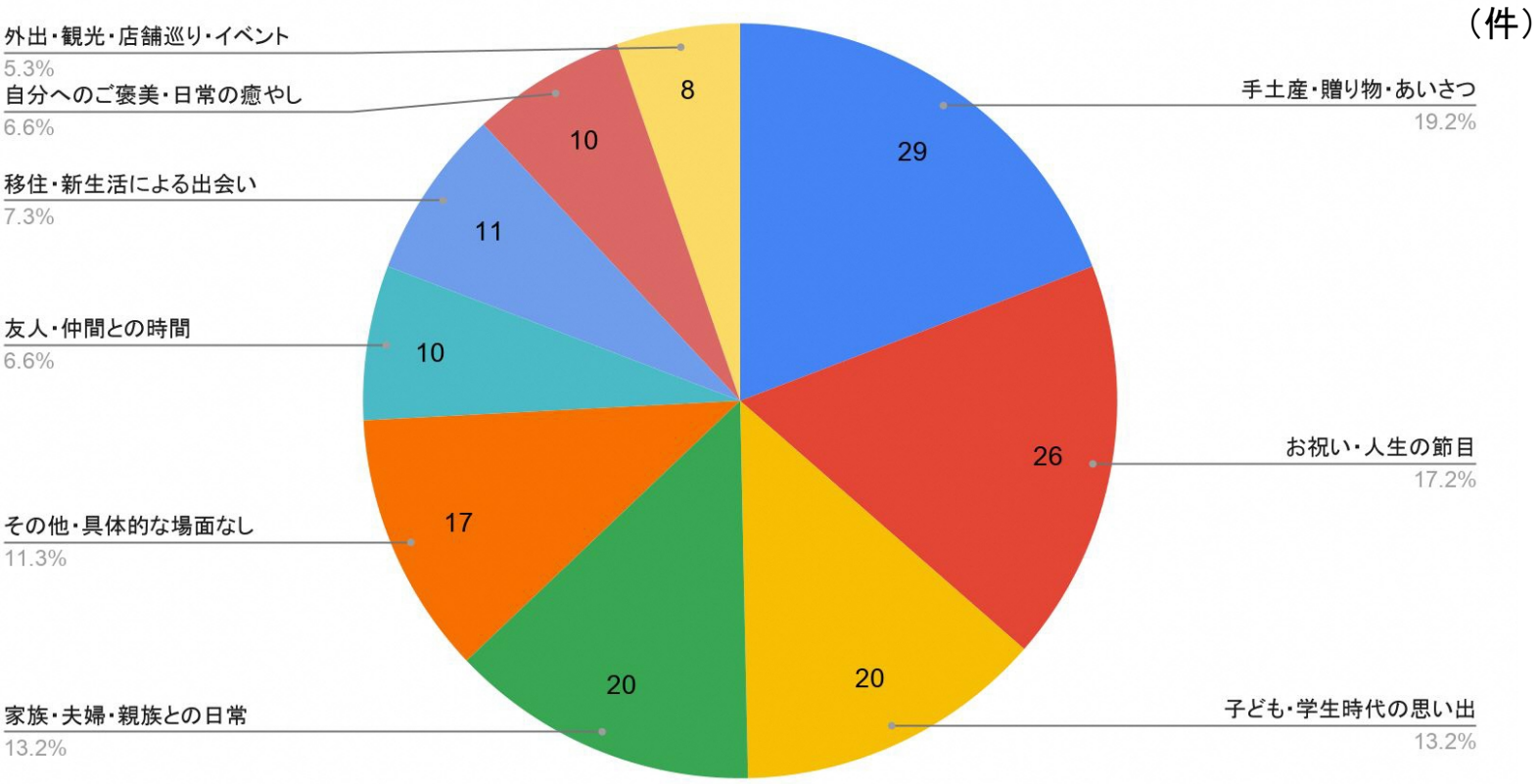
コメントのカテゴライズ

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

コメントのカテゴライズ｜カテゴリー覧①

カテゴリ別コメント件数（延べ151件）

コメント全件を分類した結果は、下記のとおりである。「手土産・贈り物・あいさつ」が29件（19.2%）で最も多く、次いで「お祝い・人生の節目」が26件（17.2%）となった。誕生日やクリスマスなど、スイーツを楽しむ機会に関する回答よりも、手土産に関する回答が最も多かった点が特徴的である。これはさいたまスイーツが、自ら味わうだけでなく、他者に贈りたいと思える存在として認識されており、地域の誇れるスイーツとして親しまれていることの表れと考えられる。また、「子ども・学生時代の思い出」が20件（13.2%）、「家族・夫婦・親族との日常」も20件（13.2%）を占めており、さいたまスイーツが幼少期の記憶や家族の団らんと結び付きながら、多くの人に長く親しまれていることがうかがえる。



※延べ151件について
1つのコメントで複数カテゴライズしたものを含む。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

コメントのカテゴライズ｜カテゴリー覧②

カテゴリ名	カテゴリの説明	メインキーワード ※キーワードは参考であり、内容を一旦確認した上でのカテゴライズとなっています。
手土産・贈り物・あいさつ	帰省や訪問時の手土産、県外の友人・知人への贈答、引っ越しや転職時のあいさつなどの場面で、さいたま市の菓子を選んでいるという意見。渡した相手に喜ばれた経験や、大宮駅・浦和駅周辺で手土産を買いやすい環境への評価も多く含まれる。	手土産、お土産、贈答、あいさつ、菓子折り、喜ばれる、県外、帰省、大宮駅、駅ビル、銘菓
お祝い・人生の節目	誕生日やクリスマス、母の日、結婚記念日、合格祝いなどの節目に、市内のケーキ店でホールケーキやカットケーキを購入し、家族でお祝いすることが恒例になっているという意見。出産・お宮参りなど人生の転機に結びついた思い出も寄せられた。	誕生日、クリスマス、記念日、母の日、結婚記念日、お祝い、ホールケーキ、バースデーケーキ、ロウソク、出産、お宮参り、合格
子ども・学生時代の思い出	通学路の和菓子店や駅前の洋菓子店など、幼少期・学生時代に食べた菓子の記憶に関する意見。すでに閉店した店舗を懐かしむ声や、祖父母・両親が用意してくれた味が今も心に残っているという回答が寄せられた。	子どもの頃、小学生、高校生、通学路、学校帰り、幼い頃、懐かしい、閉店、祖母、祖父、思い出の味

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

コメントのカテゴライズ｜カテゴリー覧③

カテゴリ名	カテゴリの説明	メインキーワード ※キーワードは参考であり、内容を一旦確認した上でのカテゴライズとなっています。
家族・夫婦・親族との日常	仕事帰りに家族の分を買って帰る、休日に夫婦や親子で味わうなど、特別な日ではない日常の中で家族と菓子を囲む時間についての意見。高齢となった親や亡くなった家族との思い出と結びついた回答も見られた。	家族、妻、夫、両親、母、父、祖父母、娘、息子、孫、一緒に食べる、買って帰る、我が家、休みの日
その他・具体的な場面なし	特定の場面には触れず、好きな店や商品のおいしさ、店舗の多さへの評価を述べた意見。「選ぶのに迷うほど名店が多い」といった声のほか、今後の取組への提案なども含まれる。	おいしい、名店、選ぶのに迷う、ファン、提案、企画、特になし
友人・仲間との時間	友人や職場の同僚、学生時代の仲間と一緒に食べた、あるいは勧められて知ったという意見。菓子が人と人をつなぐきっかけとなったという回答や、友人同士での店舗巡りの思い出が寄せられた。	友達、クラスメイト、同僚、先輩、店舗巡り、はしご

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

コメントのカテゴライズ｜カテゴリー覧④

カテゴリ名	カテゴリの説明	メインキーワード ※キーワードは参考であり、内容を一旦確認した上でのカテゴライズとなっています。
移住・新生活による出会い	転勤や結婚などで さいたま市に移り住んだ際に、菓子店の多さや味の水準の高さに驚いたという意見。移住前は知らなかった地域の魅力として、スイーツを再発見したという回答が中心。	引っ越し、転勤、転入、移住、結婚を機に、驚いた、先入観、知らなかった
自分へのご褒美・日常の癒やし	仕事を頑張った日や気持ちを切り替えたいときに、自分のために菓子を買う・カフェで一息つくという意見。一週間の区切りや励ましとして、日常の中に取り入れている様子がうかがえる。	ご褒美、自分へ、一息、癒やし、リフレッシュ、ほっとする、頑張った、一人で
外出・観光・店舗巡り・イベント	スイーツラリーや冊子を活用した店舗巡り、コンサートや観光の帰りに立ち寄るなど、外出の目的や楽しみとして菓子を挙げた意見。知らない店舗との出会いを求める声も含まれる。	スイーツラリー、イベント、店舗巡り、食べ歩き、冊子、SNS、テレビ、参道、観光、立ち寄る、出かける

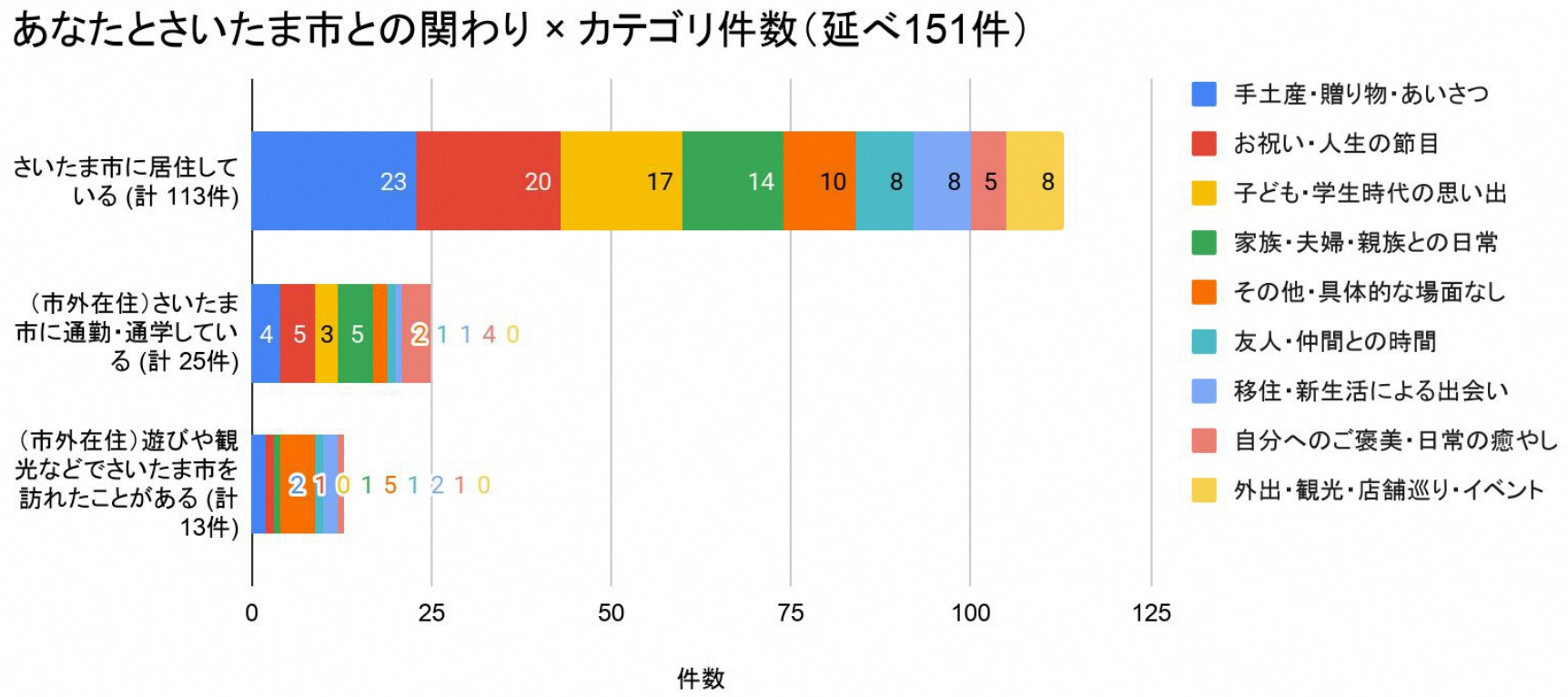
© PoliPoli, Inc. All rights reserved

クロス分析と考察

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

カテゴリごとの分析｜さいたま市との関わり×カテゴリとのクロス集計

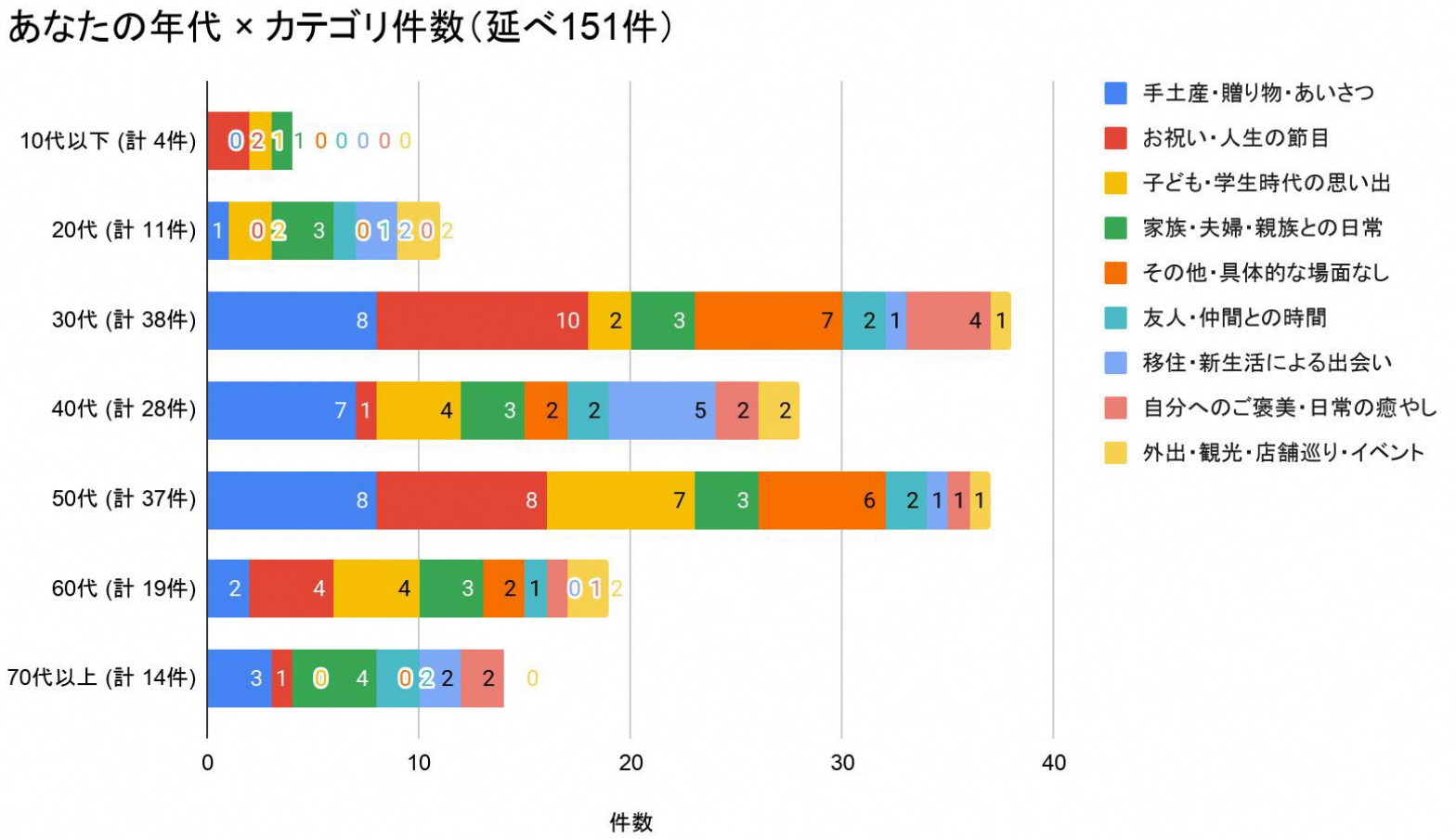
さいたま市に居住しているユーザーから寄せられたコメント（113件）では「手土産・贈り物・あいさつ」が23件、「お祝い・人生の節目」が20件と、訪問時やお祝いの際の購買意欲に基づく回答が上位を占めた。一方、市外在住で通勤・通学しているユーザーの利用シーン（25件）は、回答数が少なく参考値とはなるが、「自分へのご褒美・日常の癒やし」が4件と、居住者に比べて相対的に高い割合を示しており、通勤途中や勤務先周辺での購入が推察される。



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

カテゴリごとの分析｜年代×カテゴリとのクロス集計

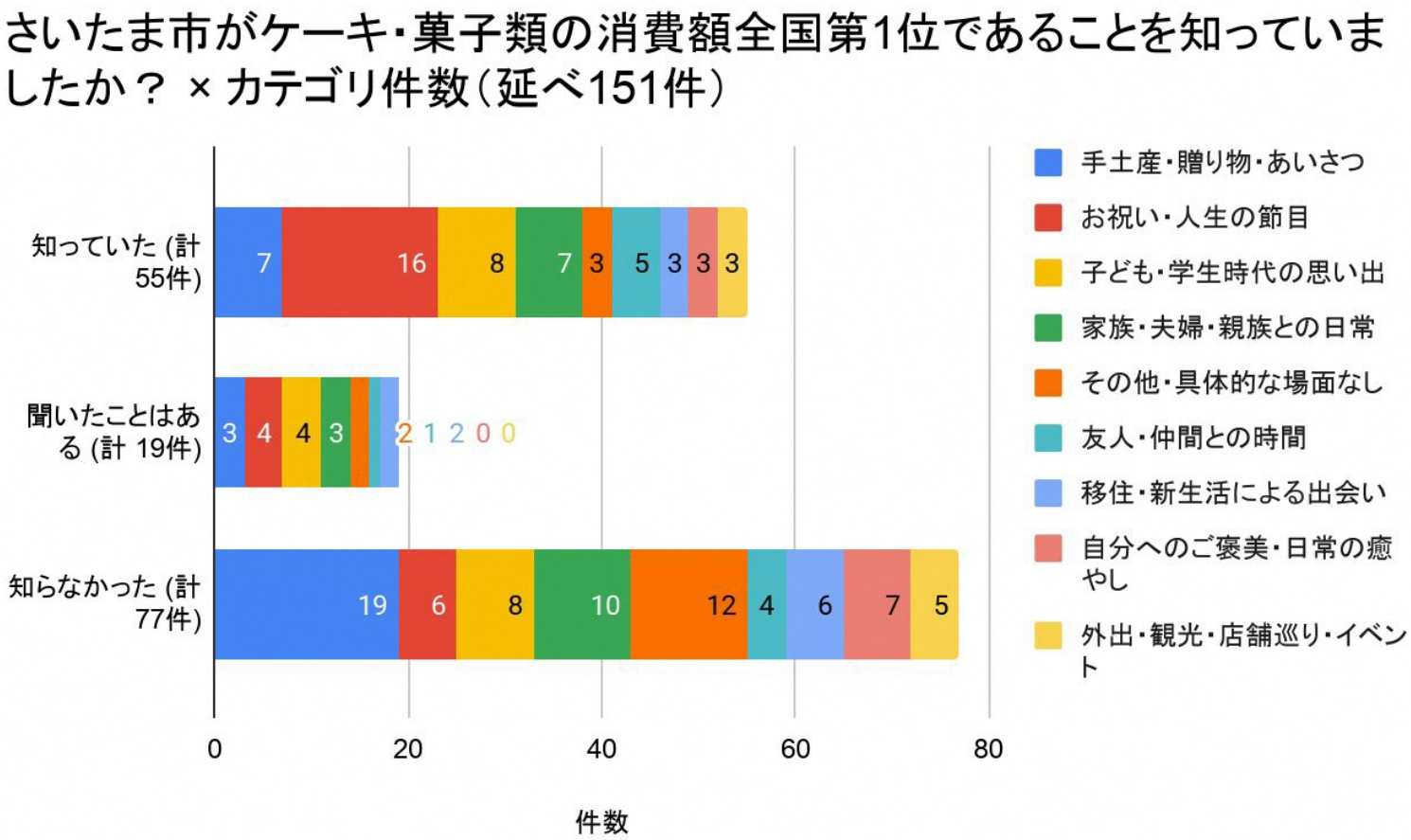
30代からのコメントにおける利用シーン（計38件）では「お祝い・人生の節目」が10件、「手土産・贈り物・あいさつ」が8件と多く、子育て世代を中心に、記念日や贈答を目的とした利用が多いことがうかがえる。50代（37件）でも同様に上位2カテゴリは、いずれも8件であったが、「子ども・学生時代の思い出」が7件寄せられており、過去の記憶に結びついた回答がみられる点が特徴的である。一方、20代以下および70代以上では「家族・夫婦・親族との日常」の割合が相対的に高く、年代によってスイーツと結びつく場面に違いがみられる。



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

カテゴリごとの分析｜消費額の認知度×カテゴリとのクロス集計

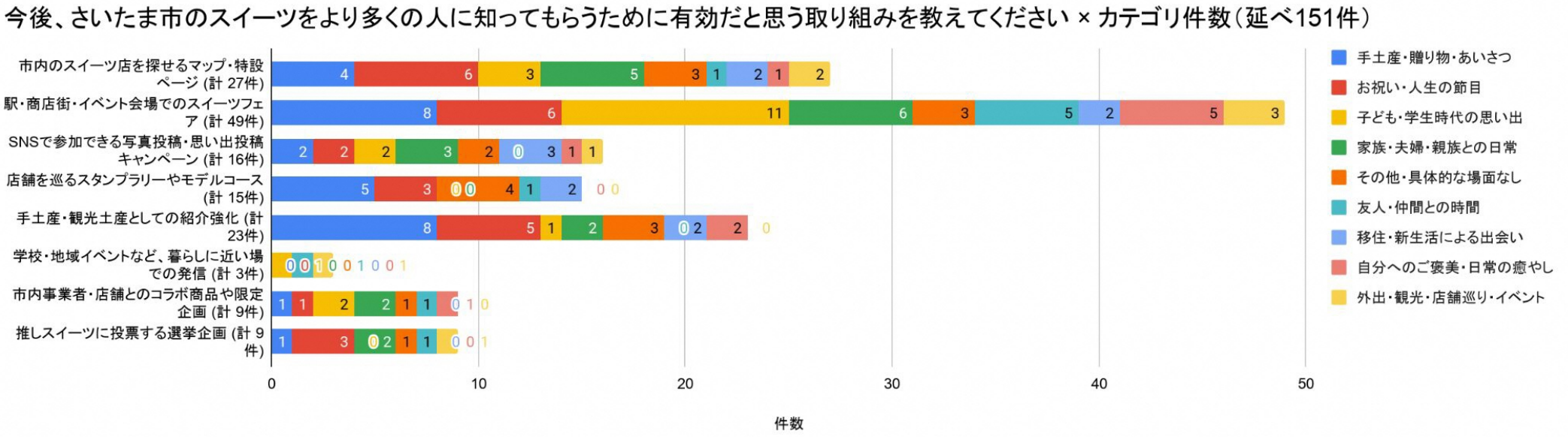
「知っていた」と回答した層からのコメントにおける利用シーン（計55件）では「お祝い・人生の節目」が16件と最も多かった。このことから消費額第1位を認知している層では、さいたまスイーツが誕生日や記念日などの特別な機会と結びついている傾向がうかがえる。一方、「知らなかった」層（77件）では「手土産・贈り物・あいさつ」が19件と最も多かった。消費額第1位とは知らなくても、日常的にさいたまスイーツを贈答用に利用している層が一定数存在することを示しており、こうした層に対して、消費額が全国でも高い水準にあることを発信することで、さらなる認知拡大につながる可能性がある。



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

カテゴリごとの分析｜認知度向上施策×カテゴリとのクロス集計

「手土産・観光土産としての紹介強化」を選んだ回答者（23件）では「手土産・贈り物・あいさつ」が8件（34.8%）を占めており、贈答用途に関する思い出をもつ層において、手土産や観光土産としての情報発信を求める声が比較的多くみられた。また、令和8年1月に実施された「いちごに恋する、さいたまスイーツめぐり」に参加し、新しいスイーツとの出会いが嬉しかったとの声もあり、イベント参加により、さいたまスイーツとの新たな接点が生まれ、思い出の形成につながった事例もみられた。



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全体考察

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全体考察：はじめに

本意見募集の目的は、さいたま市がケーキや菓子類の消費額全国第1位である背景にどのような要因があるのかを調査・分析し、今後の認知度向上や魅力発信の施策のヒントを得ることで、更なる地域経済の活性化を図ることにある。

1. 記憶に深く刻まれた「思い出」

今回の意見募集では120人・127件のコメントが寄せられた。

- **具体的な情景と心情：**誰と・どこで、どのような場面で食べた思い出なのかという具体的な情景や心情まで記述された回答が多く、さいたまスイーツが食べた人の記憶として心の中に深く刻まれていることがよくわかる結果となった。

2. スイーツが結びつく場面は多岐にわたる

贈答、記念日、幼少期の記憶、家族との日常など、利用シーンは幅広く分布した。

- **裾野の広さ：**さいたまスイーツは特別な日の嗜好品としてだけでなく、贈答品としても喜ばれており、その裾野の広さは改めて認識するところとなった。

3. 選択式設問との組み合わせによる示唆

消費額全国第1位という認知度の実態や、どのような取組が求められているかを把握することができた。

- **利用シーンと施策の連動：**回答者自身の利用シーンと期待する施策が連動している傾向もみられ、今後の打ち手を検討するうえで参考となる素材を得ることができた。

■ まとめ

以降では、①「さいたまスイーツ」の認知度向上、②「さいたまスイーツ」の魅力の発信の2点について、集計結果から見えてきた今後の施策案について述べる。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全体考察①：「さいたまスイーツ」の認知度向上

消費額全国第1位を「知らなかった」回答者は51.7%と過半数を占めた。回答者全員が市に接点を持つ中でのこの結果は、市の強みがさいたまスイーツの購買者に十分には届いていない実態を示している。認知状況による利用シーンの違いを踏まえ、以下の3点を提言する。

1. 現状：行動としての「利用」は定着しているが「認識」が追いついていない（分析）

認知状況によって、さいたまスイーツが利用される主な場面が異なることが確認できた。

- **「知らなかった」層（77件）：**「手土産・贈り物・あいさつ」が19件（24.7%）で最多。消費額第1位という事実を知らないまま、日常的に贈答へ利用している層が一定数存在する。
- **「知っていた」層（55件）：**「お祝い・人生の節目」が16件（29.1%）で突出。このことから消費額第1位を認知している層では、さいたまスイーツが誕生日や記念日などの特別な機会と結びついている傾向がうかがえる。

2.「知らなかった」層への施策：購買場面でのブランド情報の付加（発信）

商品や店舗の魅力は認識しているものの、それを「さいたま市の特徴」としては捉えていない、施策をより展開すべき潜在的な支持層である。

- **販売時の情報付加：**手土産や贈答品を選ぶ場面で、「この商品は、ケーキ・菓子類の消費額全国第1位という実績をもつさいたま市のスイーツ」という情報を販売の際に付加していく。贈り手が実績やブランドを認識すると同時に、贈られた人にも認知を広げる効果が期待できる。

3.「知っていた」層への施策：さいたまスイーツの発信者になってもらう（拡散）

すでに価値を認識している層には、その認知を知らない層へ拡大してもらう役割を担ってもらう。

- **SNS投稿キャンペーン：**選択的設問にも挙げられていた「SNSで参加できる写真投稿・思い出投稿キャンペーン」を実施し、思い出やお店の素晴らしさを発信してもらう施策が有効と考える。

■ まとめ

すべての層に一律の情報を届けるのではなく、利用シーンの違いに応じてターゲットを分けて施策を打つことが、未だ認知していない層に情報が届くきっかけになると考えられる。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全体考察②：「さいたまスイーツ」の魅力の発信

はじめに、さいたまスイーツの魅力とは何かを定義したうえで、集計結果を踏まえた発信の方向性を以下の3点で整理する。

1. 魅力の定義：「質の高さの面的な広がり」と「つながりを生む力」

コメントでは具体的な店舗名も挙げながら、「誰と、いつ、どんな場面で」について詳細にコメントを投稿していただいた。

- **市内各地への点在：**「市内の店舗の多さや品質の高さに驚いた」「どこのスイーツを食べても美味しい」など、有名店以外にも質の高い店が点在していることに言及するコメントが非常に多かった。
- **人と人とをつなぐ力：**「手土産・贈り物・あいさつ」29件、「お祝い・人生の節目」26件に加え、子ども・学生時代の記憶や家族との日常のコメントも多く、おいしさを軸に思い出が鮮明に残っている又は蘇るという結果を見ることができた。
- **贈りたくなる価値：**「手土産・贈り物・あいさつ」が最多となった点は、さいたまスイーツが自ら味わうだけでなく、他者に贈りたいと思える存在として認識されており、地域の誇れるスイーツとして親しまれていることの表れと考えられる。

2. 求められている取組：スイーツフェアへの期待

「駅・商店街・イベント会場でのスイーツフェア」が36件（30.0%）と、全体回答数の1/4以上を占めた。

- **次点の取組と留意点：**「市内のスイーツ店を探せるマップ・特設ページ」24件（20.0%）、「手土産・観光土産としての紹介強化」19件（15.8%）と続く。特設サイトはInstagram連動や店舗情報を含めて既に存在しており、回答者の中には特設サイトの存在を認知していない層が一定数いることが推察できる。
- **イベントによる出会いの実例：**令和8年1月に実施された「いちごに恋する、さいたまスイーツめぐり」に参加し、新しいスイーツとの出会いが嬉しかったとの声もあり、イベント参加により、さいたまスイーツとの新たな接点が生まれ、思い出の形成につながった事例もみられた。

■ まとめ

以上を踏まえると、2つの魅力をいかした「駅・商店街・イベント会場でのスイーツフェア」の開催は、魅力発信効果の高い施策ではないかと考える。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全体考察②：スイーツフェアによる魅力発信の提言

さいたま市が誇る数多くのスイーツを味わえるイベントとなることはもちろんのこと、そこに「人と人との繋がり」を生み出す施策を打つことで、自分だけでは知ることのなかった新しいさいたまスイーツとの出会いを生むことができる。具体的には、以下の3点を提言する。

1. 味わう：市内各地の質の高いスイーツと出会える場をつくる

有名店以外にも質の高い店が点在しているという魅力を、一度にまとめて体験できる場とする。

- **面としての魅力の可視化：**区や地域を横断して出店を募ることで、「地元では有名でも少し離れると知らない店」との出会いを生む。

2. 知る：他者の「思い出」を通じて新しい店と出会う

魅力を語り合うような、直接の思い出の共有の場をイベント内で実施できることが望ましい。

- **コメントの会場内掲載：**魅力を語り合うような場にそこまで積極的に参加できない層に対しては、今回の意見募集で投稿されたコメントを会場内に掲載し、紹介することで、新しいさいたまスイーツとの出会いのきっかけを生み出す。

3. 残す・広める：新たな思い出をその場で記録し、発信してもらう

イベントを一度きりの体験で終わらせず、次の来場者を呼び込む循環につなげる。

- **記述とSNS投稿の促進：**自分とさいたまスイーツとの思い出や、このイベントで得た新たな思い出を記述してもらい、会場内に掲示したり、自身のSNSへの投稿を促進する。

■ まとめ

こうした仕掛けにより、更にさいたまスイーツのファンを増やしていくという施策は、一定の有効性があると考える。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

カテゴリごとの主要なコメントのピックアップ

※運営にて一部抜粋・修正しているものがあります。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

手土産・贈り物・あいさつ

- とにかくどこのお菓子を食べても美味しい。誰に何を渡しても大体喜ばれる。（市内在住/30代）
- 花見の白鷺宝は、他都府県の方へのお土産にしてとても喜ばれた。（市内在住/70代以上）
- 家族全員スイーツ好き、小さかった子供達にイベントごとにスイーツを出していたら大きくなってから自分達で新店舗を開拓して今では帰省するたびにこだわりのお土産として買ってきてくれるように。1人はたい焼き1人はアカシエのケーキ担当になりました。（市内在住/60代）
- 浦和駅西口のコルソにある彩果の宝石はどれも美味しい。元々フルーツゼリーの類は甘すぎて苦手でしたが、彩果の宝石を初めて食べたとき「これは別格だ」と衝撃を受けました。日持ちもするので、知り合いへのちょっとしたお土産に買うこともあります。（市外在住/50代）
- 昔からアカシエが好きで、転職の挨拶でもスイーツ有名ですと地元アピールも兼ねて菓子折りを買っていきました。それからさいたまはスイーツなんだよねと職場で認識してもらってます！（市内在住/40代）
- 転勤で越してきて6年目です。最初に驚いたのは、手土産を買う店に困らないことでした。正直、越してくる前は自分もそんなイメージはなかった。住んでみないと分からないものですね。もっと知られていてもいい気がします。（市内在住/30代）
- 東大宮にあるクレアエストのケーキ、美味しくてお友だちの家に行くときに手土産として買う事が多いです。マカロンも美味しいです!（市内在住/50代）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

お祝い・人生の節目

- ぼくの家ではお誕生日や何かのお祝いのときには、必ずケルクショーズのケーキを食べます。おいしいケーキ屋さんはたくさんあるけれど、ケルクショーズのケーキはシンプルでとてもおいしいです。家族みんな大好きです。お誕生日にはホールケーキにたくさんのクリームを飾ってもらって、ロウソクをさして、お祝いします。
  （市内在住/10代以下）
- 分娩台で「これから出産！」という瞬間に…不意に「アカシエのいちごのケーキがたべたい」と言ったら、産科の先生が、「ごほうびに」、看護師さんが「あまりん？」と。その5分後くらいに娘が産まれました。そして、お産に立ち会った旦那さんが産後の退院の時に買ってきてくれました。産後の体にしみるとてもおいしい味でした。
  （市内在住/30代）
- 今まで母の日に何もしてこなかった私が、高校生になって初めて母にケーキを贈った。学校の近くで見つけた、母の大好きなモンブラン。「食べちゃうのがもったいないわ」そんなことを言って、本当に小さな一口ずつ、愛おしそうに食べる母。そのモンブランの写真をスマホの待ち受けにまでしていた。こんなに喜んでくれるなんて。これまでの不義理を恥じると同時に、これからはもっと親孝行をしようと心に決めた。
  （市内在住/10代以下）
- さいたま市に住んで、記念日毎に美味しいスイーツをいただいています。
  （市内在住/30代）
- 昨年嫁いだ娘の誕生日、ひな祭り、クリスマスにホールケーキを買ってお祝い
  （市内在住/60代）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

子ども・学生時代の思い出

- 市外から浦和の高校に進学（当時は合併前の浦和市）しました。クラスメイトにおいしいと教えてもらった白鷺宝を食べてみて、そのおいしさに感動しました。その友達とは社会人になってからも一緒に旅行に行ったりしていました。おいしいお菓子は人と人をつなぐきっかけのひとつになるも思います。（市内在住/40代）
- 私の１番は、岩槻区にある光千堂の太郎焼きです。高校生の頃、学校帰りに夏はかき氷とソフトクリーム、冬はあんこパンパンの太郎焼きをよく食べていました。
（市内在住/60代）
- 小さい時はケーキを食べるって特別な事でした。あまり今みたいに沢山販売してなかったように思います。そんな時代に浦和駅に山口屋というケーキ屋さんがありました。そこのイチゴのショートケーキがとてもおいしくて、でも高いので中々食べられなかった特別な物でした。母と良くなんでこんなに美味しいのか話しながら食べた記憶があります。
（市内在住/50代）
- 私が小学生だった頃、父が仕事帰りにお土産で買ってきてくれたヨシノのバナナボートが忘れられません。大宮駅西口にお店はありましたが、スポンジと生クリームとバナナの絶妙なハーモニーに姉と「美味しいね～」とニンマリしながら食べたのも良い思い出です。ケーキは誕生日やクリスマスに食べる特別なスイーツに近い存在でした。
（市外在住/60代）
- ５０年以上前に、祖母に自転車の後ろに乗せられ、まだ木造の大宮駅によく行きました。駅のなかか外か不明ですが、たい焼きを買って貰った記憶があります。お店の名前もわかりません。靴磨きの少年がまだ駅前に座ってたような頃の話です。
（市内在住/50代）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

家族・夫婦・親族との日常

- 当時90歳の同居の義母と浦和駅近くに買い物に出掛けるたびに、駅前の「ときわ団子」に立ち寄り、義母と美味しく食べたのを、懐かしく思い出します。素朴な昔ながらのお団子とじっくり練り上げられた小豆の餡が、絶妙なハーモニー。忘れようにも忘れられない思い出の味です。
（市内在住/70代以上）
- 大宮駅近くの甘味処田むらで母と一緒にあんみつを食べた思い出があります。桶に入って流れてくるんです。美味しかったなあ。調べたらまだお店があったので再訪したいです。
（市内在住/50代）
- 浦和のロイヤルパインズホテルの１階のお店で妻とあまりんのかき氷を食べました。とても美味しかったです。（市内在住/30代）
- 私はお菓子が好きでよくお菓子屋さんを見つけると家族と買いに行ったり自分へのご褒美で食べています。
（市内在住/10代以下）
- 岩槻区役所に用事で行った帰りに区役所の向かいの駅前ビル一階の十万石まんじゅうでおまんじゅうバラ2個買って、家で高齢の母親と食べた事が思い出です。その母親は、要介護、寝たきりとなり老人ホームに入居しています。痴呆が進み、いろいろな事を忘れてしまったけど、十万石まんじゅうをお土産として買って持って行くと、『このおまんじゅう、美味しい』と、言って笑ってくれるのが嬉しいです。できる限り長生きしてほしいと願うばかりです。
（市内在住/60代）
- 西浦和のKazuで買ったお菓子を両親にあげたらとても喜んでいました。今はなくなってしまいましたが、一生忘れられない良い思い出です。（市外在住/20代）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

友人・仲間との時間

- 東大宮にあるケーキ屋さんのモンブランがとても美味しく、友達が来たら必ず連れて行っていました。（市内在住/30代）
- プレーズ・デ・ポアのプリン。食通の先輩のご紹介で食べたこのプリン！私の中でナンバーワンのプリンは春日部のオークウッドのプリンでしたが！しかし！場所が遠いので気軽に買いに行けないと諦めていた所、先輩がご馳走してくれたこのシンプルなプリンがオークウッドに近い味で即とりこになりました。（市内在住/50代）
- スイーツは大切な人、気の合う友人、家族と食べると幸せホルモン全開、ダブルに美味しい！素敵な神様からの贈り物の様に感じます。（市外在住/60代）
- 大学の友達と、休みの日にお店を回るのが好きです。SNSで見つけて行くことが多いんですけど、意外と近くに別のお店があったのを後から知った、みたいなことがよくあって。この前も浦和で2軒はしごしたつもりが、実は3軒目が徒歩5分のところにあったらしく。どこに何があるのか、まとめて分かるものがあったらもっと行くのにな、と思います。（市内在住/20代）
- さいたま市に他県から越してきました時、田島通りに洋菓子「Kazu」というケーキ屋さんがあって、子供たちの誕生会やお友達とよく食べました。お店の前に「さいたまはケーキの消費が全国一です」と表示されていたように思います。（市内在住/70代以上）
- お茶の稽古の時に 白鷺宝を よく利用していました 上品で 美味しいお菓子でした。
（市内在住/70代以上）
- 夏真っ盛りの炎天下、与野本町駅前の大こくやで、くずバーなるもの発見。見た目は棒アイス。味は10種類以上。私は人気のサイダーを食べました。口にいれるとヒンヤリ。仕事仲間と昼食後に食べて、良いリフレッシュとクールダウンになりました！
（市内在住/30代）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

移住・新生活による出会い

- 愛知から結婚を機に埼玉へ引っ越してきて、生活環境ががらりと変わりました。仕事も新しくなり、初めてのご挨拶まわりで何を持っていこうか悩んだとき、真っ先に思い浮かんだのが「彩果の宝石」でした。嫁が以前から大好きで、帰省のたびに家族用に買っていたこともあり、私にとっても馴染みのあるお菓子でした。ちょうど通勤経路に店舗があったこともあって利用してみたところ、想像以上に喜ばれ、埼玉での新生活のスタートを温かく迎えてもらえた気がしました。
（市外在住/40代）
- 埼玉県へ引っ越してきた際、どのような施設やお店があるのか調べている中で、スイーツの工場直売所が数多くあることに驚きました。特に印象に残っているのは、舟和の工場直売所と文明堂のさいたまあおぞら工房です。どちらも市内からアクセスしやすく、気軽に訪れることができました。
（市外在住/20代）
- 横浜市から埼玉県へ引っ越してきた当初は、正直なところ都内や横浜と比べると、スイーツのレベルは少し劣るのではないかと勝手な先入観を持っていました。ところが、さいたま市内のパティスリーを調べてみると、評判の良いお店が数多く見つかり、実際に足を運んでみると、そのおいしさと完成度の高さに驚かされました。特に「アカシエ」のスイーツは衝撃的なおいしさで、「埼玉にもこんな素晴らしいお店があるのか」と感動したことを今でもよく覚えています。
（市外在住/50代）
- もう30年位前になるかしら。大宮市に引っ越して来ました。何にもない殺風景な駅周りでしたが小さなケーキのお店「ラ・リーヴ」がありました。当時はイートインがなくてイチゴのショートケーキとレアチーズケーキを買いました。その美味しかったこと、びっくりでした。こんなところにケーキの名店があるなんて。
（市内在住/70代以上）
- 関西から埼玉に引っ越しした時にはじめて10円まんじゅうに衝撃受けました。黒糖で甘くて美味しかったです。手土産にあげても喜んでくれるしまた食べたくなりました(*´∀｀*)
（市内在住/40代）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

自分へのご褒美・日常の癒やし

- 浦和駅近辺をふらふら歩いていると伊勢丹やパルコ、さらには近辺の路面店に吸い寄せられ･･･目に入ったスイーツが気になってついつい購入してしまいます。ご縁のあった美容師さんがご実家の浦和地区に店舗移転したため、定期的に通っているからです。予約時間までの間、特に何かを購入するつもりがあって歩いている訳ではないのですが、ほぼ毎回必ずといっていいほど何かしらを購入してしまいます。定番銘菓だったり、ポップアップの目新しいものだったり、その時々のスイーツを手にしては毎回ホクホク顔になっています。美容室での滞在は長丁場でお腹も空いてくるので、気になるスイーツを手土産＆自分用として持参して、待ち時間につまんで気分もリフレッシュされて、長時間座り続けて疲れたからだにとっても癒しになっています！
（市外在住/40代）
- 自分へのご褒美はアカシエのマカロン。
（市内在住/70代以上）
- 良いことがあった時、嫌なことがあって自分を励ましたい時、なぜかいつもは買わないケーキを買ってしまう。
（市内在住/50代）
- 去年、仕事の昇任試験に合格したお祝いで、職場近くの洋菓子店で、あまりんのショートケーキを買って、お祝いしました！
（市内在住/30代）
- 猛暑の中で歩き疲れていた時に、パインズホテルで食べたかき氷の味が忘れられません。お値段は高めですが、お店の雰囲気も落ち着いていたのでゆっくりと味わう事が出来ました。
（市内在住/60代）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

外出・観光・店舗巡り・イベント

- 市内で開催されるコンサートの帰りに立ち寄る会場近くの小さなケーキ屋さん。帰宅後、音楽の余韻と共にいただきます。これをなんと表現しますか？幸せと言わせてください！
（市内在住/60代）
- 一月に実施された「いちごに恋する、さいたまスイーツめぐり」を楽しく参加させてもらった。居住地以外の区には知らなかったけど美味しいスイーツが沢山あることをあらためて知ることができて良かった。地元では有名でもちょっと離れてしまうと知らないお店を知る機会を増やせれば、その分楽しみも増えるので、今後の企画に期待しています。
（市内在住/60代）
- 氷川参道に沿って、スイーツやカフェをはじめとした大変ハイソなお店が揃っているのは知っていて、いつか入ろうと思ってまだ入れておりません。一つだけ、入ったことがあるのはだんご屋さんでしょうか。だんごもスイーツだと思いますので、私の思い出として入れさせていただきます。
（市内在住/20代）
- 「サティに行くまでの道にあったお団子屋さん」中学高校くらいの時、北浦和駅から歩いてサティ(当時)に行くまでの商店街に、お団子屋さんがありました。1本30円くらいで、よく食べ歩きに買って友達とサティまで行くのが楽しみだった思い出です。
（市内在住/40代）
- さいたまスイーツ100選？の冊子をもらってきて、何軒か行きました。今はない駄菓子の鈴木屋さんのチーズケーキが印象に残っています。
（市内在住/50代）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved



© PoliPoli, Inc. All rights reserved